

# 弦楽器演奏 技磨くぞ

県の芸術教育推進校 敦賀・松陵中

## 一流招き9人練習開始

本年度、県から「芸術教育推進事業」の指定を受けた敦賀市松陵中で24日、吹奏楽部の生徒がバイオリンとビオラ、チェロの練習を始めた。中学の部活動では経験する機会が少ない弦楽器に触れてもらうことが目的で、数年かけて技を磨いていく。

同事業は、小中学生のうちから弦楽器にも視野を広げてもらうこと2011年度に始まった。県内16の小中学校、高校が指定されており、技術や表現力の向上を目指している。同校では同部の約40人の中から、他の楽器と弦楽器を掛け持ちする弦楽パートを結成。1年生を



中心に9人が練習する。プロの奏者として活躍している山口健太郎さん（バイオリン）と植村勉

バイオリンの持ち方などを習った生徒＝24日、敦賀市松陵中

さん（チェロ）が講師を務め、月に数回同校を訪問。生徒は全員初心者で、この日は楽器ごとに分かれて練習し、講師から松ヤニの塗り方や弓の持ち方など、楽器の扱い方を初歩から学んだ。

三木ひかりさん（1年）は「バイオリンは思ったより軽いが美しく大きな音が出た」と早速魅力に触れた様子。津田ひなたさん（同）は「持ち方が難しいけれど、曲が演奏できるまで上達したい」と意欲を燃やしていた。

（成実宏一）